

移動式舞台及びパネル購入事業



取組地区：小松原地区
取組年度：平成 29 年度
事業主体：小松原地区まちづくり協議会
事業費：7,972,000 円（基金活用額：7,972,000 円）
問合わせ：24-1900

課題・取組みの概要

○地区まつりの企画立案、運営については、まちづくり協議会の役員を中心に行っていたが、高齢化により会場設営が大きな負担となっていた。また、地域団体においても、イベント等の開催にあたって、準備が大きな課題となっていた。そこで、軽量のアルミ製展示用パネル及び折りたたみ式アルミ製ステージを購入し、設営の効率化を図るとともに、地域団体への貸し出しを行うことにより、活動の活性化を支援することとした。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○これまで半日かかっていた会場設営の時間を大幅に短縮するとともに、事故の危険性を軽減することができた。また、自治公民館をはじめとする地域団体、小中学校、保育所などに貸し出し、地域活性化のための活動を支援することとした。

今後の課題・アドバイス等

○台帳の整備など管理体制の確立が必要である。また、破損や経年劣化等による修理に対応するため、基金を活用した更新計画を策定する。

ふれあいまつり活性化事業①



取組地区：妻ヶ丘地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：妻ヶ丘地区まちづくり協議会
事業費：3,764,880 円（基金活用額：3,764,880 円）
問合わせ：23-8592

課題・取組みの概要

- これまで文化祭で使用していた展示用パネルは重量があり、運搬や設営の際の負担が大きかったため、より軽量のパネルを、という要望が地域住民から長年上がっていた。
- 展示用パネルは毎回他施設から借用していたため、他のイベント等と重なると、希望の日に借りられないこともあった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 従来に比べ格段に軽いものになったことで、作業時の負担が大きく軽減された。
- これまで他施設から借用していたため、日程の調整等が必要だったが、その必要が無くなった。
- 急なレイアウトの変更にも容易に対処できるようになった。
- 今後は学校等にも貸し出しを行い、更なる活用が見込まれる。

今後の課題・アドバイス等

- 保管場所として地区公民館の倉庫を借用しているため、いずれはまち協で手配する必要がある。
- 耐用年数はかなりあるが、更新に係る費用について計画を立てておく必要がある。

ふれあいまつり活性化事業②



取組地区：妻ヶ丘地区
取組年度：令和元年度
事業主体：妻ヶ丘地区まちづくり協議会
事業費：3,706,560 円（基金活用額：3,706,000 円）
問合わせ：23-8592

課題・取組みの概要

○イベント開催時に雰囲気作りや参加者の高揚感の創出を図るため、まち協のロゴ入りテント及びスタッフジャンパーを作製したいとの要望があった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- ロゴ入りテントを各自治公民館に配備した。
- イベントで使用されることにより、協議会のイメージアップ、認知度向上に貢献した。
- イーザーアップテントにしたことで、組み立てが楽であると好評であった。
- スタッフジャンパーをイベントで着用することにより、スタッフ同士の一体感が生まれ、スムーズな運営が実現した。

今後の課題・アドバイス等

- 保管場所の確保と管理が課題である。
- 更新の方法の検討が必要である。

早水あやめまつり活性化事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：平成 29 年度
事業主体：祝吉地区まちづくり協議会
事業費：599,400 円（基金活用額：599,400 円）
問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 課題：祝吉地区は、市花「あやめ」が咲き誇る早水公園があり、市内外へ知名度を高めるためイベント等の開催が要望されていた。
- 概要：平成 6 年の第 1 回早水あやめまつり開催から 20 年以上が経過し、当時作成したスタッフの法被やのぼり旗の老朽化がみられたため新調。会場周辺にのぼり旗を設置することにより、まつりの周知と活性化を図った。
- 毎年 4 月 29 日（昭和の日）に「早水あやめまつり」開催する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 成果：市内外から約 6,000 人の来場者があり、地域のにぎわいづくりに寄与した。
- 事業費圧縮のため、抽選会を実施するにあたり抽選券の販売を行った。
- 集客のため、観光ガイドブックやフリーペーパーなどへまつり実施の記事を掲載した。

今後の課題・アドバイス等

- 今後の事業継続の方向性：毎年実施
- 今後、解消すべき点
 - ・荒天時の開催についての判断基準の検討。
 - ・出演団体との連絡調整
 - ・あやめの開花など問い合わせが多数あるが公園管理をしていないため回答に苦慮する。
 - ・公園管理を行っている道路公園課との連携が必須である。

祝吉地区まちづくり協議会活動充実事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：令和元年度
事業主体：祝吉地区まちづくり協議会
事業費：484,000 円（基金活用額：484,000 円）
問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

地域イベント

課題・取組みの概要

- 祝吉地区では、早水あやめまつりやふれあい文化祭など様々なイベントを実施しているが、イベントに使用するテントの不足分を各自治公民館から借用していた。
- 祝吉地区まちづくり協議会の名前入テント 3 張を購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 協議会名入りのテントを使用することで、会場の雰囲気づくりや参加者の高揚感創出が図られた。

今後の課題・アドバイス等

- 更新方針：使用状況に応じて検討する。
- 備品数が増えることにより、保管場所の確保が必要となる。

イルミ&アートフェスタ開催事業



取組地区：五十市地区
取組年度：令和2年度
事業主体：五十市地区まちづくり協議会
事業費：1,611,917円（基金活用額：1,610,000円）
問合わせ：23-2184

課題・取組みの概要

- 地区資源の一つである「桜通り（県道都城隼人線）」で歩行者天国を実施しようと、協議会の発足直後から検討が重ねられてきた。
- しかし交通量の増加で実施が困難となり、代替案としてライトアップやイルミネーション等の検討を重ねた結果、イルミネーションと絵画や竹灯籠のアート作品を展示し、地域への愛着を深め、活性化につなげようと実施に至った。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 「桜通り」で実施するため、開催時期は開花の頃とした。
- 住民による手作りを基本として、絵画は地区内の学校、保育園等が作成。灯籠は地元の高校生に作成を依頼した。またイルミネーションの電源供給も地元の協力を得ている。
- 初回はコロナ禍のため、告知を行わなかったが、来場者からは好評であった。

今後の課題・アドバイス等

- 今後、10年間は毎年継続する考え方で取り組んでいる。
- 集客、駐車場確保、展示面積や参加住民の拡大等が課題であり、引き続き改善を検討したい。

五十市地区文化祭等充実事業



取組地区：五十市地区
取組年度：令和2年度
事業主体：五十市地区まちづくり協議会
事業費：1,508,327円（基金活用額：1,508,327円）
問い合わせ：23-2184

課題・取組みの概要

- 最も歴史のある文化祭において、屋外用の机、イス等が老朽化し、必要数が不足していた。
- 継続開催に向けて、備品購入と併せて、管理シール等の作成や収納倉庫の整備を行った。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 令和2年度は、コロナ禍で文化祭を中止したため活用できなかった。しかし、まちづくり協議会の倉庫やシール、収納器具の活用で、他の備品との区別や整理整頓が容易になった。
- 倉庫の設置に当たっては、生涯学習課と協議を行い、使用貸借契約を交わした。

今後の課題・アドバイス等

- 老朽化を前提に、再整備のための積立金等について検討する必要がある。
- 生涯学習課との使用貸借契約は、3年毎に行う必要がある。

横市地区まつりを活性化する事業



取組地区：横市地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：横市地区まちづくり協議会

事業費：1,733,400 円（基金活用額：1,733,400 円）

問合わせ：25-2257

課題・取組みの概要

- 横市地区まつりは参加者 2,500 人にのぼる地区を代表する伝統行事になったものの、備品の不足により規模を大きくできなかった。
- 横市地区まつりに使用する折りたたみイスや折りたたみ机を各 160 セット、組み立てテント 5 張りを購入する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 従来の備品に比較して、軽量化され作業能率が向上している。
- 備品が新しくなり、横市地区まつり展示物等の華やかさを演出できている。

今後の課題・アドバイス等

- 備品の管理はまちづくり協議会が行う。
- テントなどの備品は、地区の団体や学校の行事に貸し出している。
- 更新費用に係る計画を立てる必要がある。

地域文化活性化事業



取組地区：沖水地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：“住みよいまち沖水”協議会
事業費：1,897,534 円（基金活用額：1,423,000 円）
問い合わせ：38-1033

課題・取組みの概要

- 「おきみず祭り」を学社融合の一貫として、沖水小学校で開催してきた。
- 20 回目の記念事業として、2 週に分け、2 部を地場産業センターで開催した。
- 2 部では、シャトルバスの運行や熱気球の体験搭乗などを実施した。
- 例年実施していない会場「2 部」を設けた。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 例年に増して、多くの地区住民が来場。盛会となった。
- 会場「2 部」の地場産業センターでは、集客のためシャトルバスを運行した。
- 抽選会を行うことで集客を図った。

今後の課題・アドバイス等

- 近年の社会情勢から、小学校を会場とすることは検討が必要である。
- 催し内容についても検討が必要である。

地域スポーツイベント支援事業



取組地区：沖水地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：“住みよいまち沖水”協議会

事業費：2,543,307 円（基金活用額：2,543,307 円）

問合わせ：38-1033

課題・取組みの概要

- 復興の一助にと終戦翌年から始まった沖水地区大運動会。参加者確保やスムーズな運営のためにも、備品等の更新、購入が必要であった。
- スムーズな準備、運営に欠かせない備品や消耗品と運動会を盛り上げるアーチや優勝旗等の備品を新調、購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 運動会の準備、進行がスムーズになった。
- アーチ等、新しい備品等により運動会が盛り上がった。

今後の課題・アドバイス等

- 運動会の継続及び参加者の確保が課題である。
- 備品、消耗品の更新時期と財源確保が課題である。

イベント環境整備事業



取組地区：沖水地区
取組年度：平成 31 年度
事業主体：“住みよいまち沖水”協議会
事業費：5,297,955 円（基金活用額：5,297,955 円）
問い合わせ：38-1033

課題・取組みの概要

- 当地区では、大運動会や祭りなど数多くのイベントを開催し、使用してきた備品等が老朽化したため、継続的な開催に支障をきたす恐れがあった。
- おきみず祭りの作品展示用として、軽量パネル 40 枚とキャスター付き支柱 60 本、収納台車 2 台を購入した。
- 健康増進を図るため、スカットボール 6 セット購入し、イベント等で使用し、貸出も行う。
- イベント等で使用する道具類の収納場所の明確化と準備しやすさのため、新たに倉庫を設置した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- わくわくラリーでスカットボールを実施した。
- 倉庫の収納が増えたことにより、配置が明確になり、取り出し及び準備が早くなった。
- 倉庫の収納品一覧を作成し、管理している。

今後の課題・アドバイス等

- パネル活用の機会は今後に期待する。
- 活用機会の増大が期待できる。
- 備品の更新時期と更新費用について計画を立てる必要がある。

まつりパワーアップ支援事業



取組地区：志和池地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：志和池地区まちづくり協議会
事業費：3,262,424 円（基金活用額：3,262,424 円）
問合わせ：36-0519

課題・取組みの概要

- 地域活性化のために開催しているイベント（文化祭、盆踊り大会等）に必要なテントや発電機は、その都度借用していたため、常備するとともに活用の幅を広げることを検討していた。
- 各地区で開催される祭りや子ども神輿・芸能大会等で使用する衣装を揃えるため、ハッピ（大人・子供用各 60 着）や浴衣（女性用 30 着）を購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地域住民を巻き込んだ各種事業を通して、地域住民の一体感を演出できるようになった。
- 衣装の好みがそれぞれ違うため、デザインの選定に苦労した。
- 備品の貸出は管理台帳で行い、衣装は借着者がクリーニング後に返却してもらっている。

今後の課題・アドバイス等

- 備品の経年劣化もあるが、当面は、修繕等に対応できるものと考えている。
- 消耗品（衣装）は、黄ばみ等の発生も考えられるため、今後の状況を見ながら費用負担を含めた更新について検討していく必要がある。
- 地域住民の交流を図ることから、地域が一丸となって取組むべき事業である。

盆踊りやぐら整備事業



取組地区：志和池地区
取組年度：令和元年度
事業主体：志和池地区まちづくり協議会
事業費：706,333 円（基金活用額：706,333 円）
問い合わせ：36-0519

地域イベント

課題・取組みの概要

- 盆踊りなどの地区内行事を盛り上げ、踊り手も来場者も祭りの雰囲気を楽しめ、記憶に残るイベントとして継承できる環境を構築する。
- イベント会場の中央に設置する組立式木造やぐら 1 台を作製し、装飾のための提灯・紅白幕等の付属品も購入した。
- 自治公民館や学校等の行事にも貸し出し、有効活用を図る。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 屋外で開催される盆踊り大会では、やぐらを円形に囲んで、来場者が地元の盆踊り（志和池音頭）を総踊りし、伝統の継承と連帯感の醸成を図ることができる。
- 部材が軽量で長持ちであることに加え、軽トラックでの運搬が可能で、組立が容易である。

今後の課題・アドバイス等

- やぐらに飾る提灯や紅白幕等の付属品の経年劣化に伴い、定期的に更新や補充をしていくために、計画を立てておく必要がある。

屋外放送機器整備事業



取組地区：志和池地区

取組年度：令和元年度

事業主体：志和池地区まちづくり協議会

事業費：1,116,072 円（基金活用額：1,116,072 円）

問合わせ：36-0519

課題・取組みの概要

- 地区内の各種イベントや盆踊り大会等の開催に際し、出演者の音声や声楽を来場者が聴き取れるよう、放送機器を整備する。
- アンプ、防滴スピーカー、マイク、ミキサー等、屋外行事でも使用可能な放送機器を購入。
- 公民館や学校等の行事にも貸し出しを行い、有効活用を図る。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 屋外イベントでは聞き取りにくかった郷土芸能（田の神さあ等）の出演者の音声（台詞等）を、ピンマイク等で集音。調整機材を介して、屋外スピーカーからも聴き取れるよう放送することで、笑いの中で伝統芸能を継承できるよう工夫した。
- 管理台帳を基に貸し出しを行っている。

今後の課題・アドバイス等

- 放送機器に対応できる人材の確保と、機器の定期的な点検が必要である。

西岳地区ふれあい文化祭事業



取組地区：西岳地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：西岳地区まちづくり協議会
事業費：625,750 円（基金活用額：625,750 円）
問合わせ：33-2000

課題・取組みの概要

- 西岳地区ふれあい文化祭では地区内外から資材調達を行ってきたが、高齢化に伴い年々準備も厳しくなってきたので準備負担軽減や来場者対応を図る必要がある。
- テーブル 20 台、イス 60 脚を購入した。
- 西岳ふれあい文化祭や各地区の祭り・行事等で使用している。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- テーブル・イス購入により、より多くの高齢者の負担が軽減した。
- 西岳地区社会教育関係団体等連絡協議会が保管・管理を行っている。
- 複数社の見積りにより、事業費圧縮を図った。

今後の課題・アドバイス等

- 高齢者利用のテーブル・イスなので、返却時のネジ緩み等の確認を徹底する。
- 屋外での使用時に足元の清掃を徹底することで延命化を図る。
- 耐用年数を勘案した更新及び補完が必要となる。

イベント周知事業



取組地区：西岳地区
取組年度：令和2年度
事業主体：西岳地区まちづくり協議会
事業費：470,800円（基金活用額：470,800円）
問い合わせ：33-2000

課題・取組みの概要

- 催しの時に、地区住民への告知や周知が徹底されていなかった。
- 看板やポスターを充実させ、イベントの活性化・成功に繋げていきたい。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 大型プリンターを導入したことで、各団体が実施する事業の充実が図られた。
- 事業費圧縮のため、複数社の見積りを取り購入した。
- 備品台帳を作成し、また貸出簿により利用状況を管理している。

今後の課題・アドバイス等

- 使用後に機器の不具合状況を双方で確認している。
- 使用料によりインク代・修理代を充填していかなければならない。

イベント環境整備事業



取組地区：西岳地区
取組年度：令和2年度
事業主体：西岳地区まちづくり協議会
事業費：1,159,200円（基金活用額：1,159,200円）
問合わせ：33-2000

課題・取組みの概要

- 屋外での文化祭やスポーツフェスタ、グランドゴルフ大会等の各種イベント時に使用する持ち運び可能な音響機器がなかったため、運営に支障があったため、音響機器を1セット購入した。
- グランドゴルフ等のイベント開催時に伴うグランド整備は、高齢者による人力作業では困難な状況であったことから、乗用型モアを1台購入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 事業費圧縮のため、複数社の見積りを取得した。
- 台帳を整備し、貸出簿により適切に管理している。

今後の課題・アドバイス等

- 毎回使用毎に、機器の破損状況を確認し、必要に応じて修繕を行っている。
- 機械の延命のため、定期的な乗用モアの管理や整備が必要である。
- 維持管理費用や更新費用について検討が必要である。

イベント支援事業



取組地区：山之口地区
取組年度：令和元年度
事業主体：山之口地区まちづくり協議会
事業費：1,130,122 円（基金活用額：1,130,122 円）
問合わせ：57-3114

課題・取組みの概要

- 山之口地区まちづくり協議会では、地区の活性化につなげるため、多種多様な団体により様々な活動を行っている。イベントや日々の活動において、必要な備品の整備を行う。
- イベント時に必要な移動式のポータブルアンプやテントを購入し、各種イベントに活用する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 放送器具一式とテントを購入。放送器具、テントは公の行事、各種団体のイベント等に貸出を行っており活用の幅を広げている。また、有事の際、防災用としても活用する。

今後の課題・アドバイス等

- 山之口地区まちづくり協議会の備品(写真付)に登録し、適切な管理、貸し出しを行う。
- 維持管理費用や更新費用について検討が必要である。

都城さくらマラソンおもてなし事業



取組地区：高城地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：都城市食生活改善推進員連絡協議会高城地区

事業費：251,232 円（基金活用額：251,000 円）

問合わせ：58-4859

課題・取組みの概要

○九州各県からの参加もある都城さくらマラソンは、参加者が減少しているため、ランナーへのおもてなしを強化し、高城地区の地域活性化及び賑わい創出を推進する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○大会は、地域のスポーツ振興や市民の健康づくり、体力づくりだけでなく、桜の名所としての観音池公園の知名度アップ、公園の利用者増、地域の活性化に貢献した。今回、ランナーに対するおもてなしとして、飲み物だけでなくバナナやイチゴ等の食べ物を準備し、好評であった。

今後の課題・アドバイス等

○今後も事業を継続するためには、各自治公民館の参加を呼びかけていく必要がある。

山田地区体育祭開催事業



取組地区：山田地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：山田地区まちづくり協議会
事業費：795,213 円（基金活用額：795,213 円）
問合わせ：64-1121

課題・取組みの概要

- 合併前に「町民体育祭」として開催されていたイベントの復活を望む声があった。
- 山田地区住民が一堂に会した体育祭を 9 年ぶりに開催した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 山田地区住民が久しぶりに一堂に会し、活気のあふれた雰囲気イベントとなった。参加者からは「とても良かった」という言葉が多く寄せられ、地域の親睦が図られた。
- 一方で 9 年ぶりの開催となったため、準備等関係者の負担が大きかった。また、各自治公民館では選手の選出に苦勞されていたようである。

今後の課題・アドバイス等

- 開催に際しては自公連等との連携が不可欠であり、今後の事業継続については、関係団体と調整を図りながら実施方法等の検討が必要である。

婚活レクリエーション事業

取組地区：山田地区
取組年度：令和2年度
事業主体：山田地区まちづくり協議会
事業費：97,421円（基金活用額：97,421円）
問い合わせ：64-1121

課題・取組みの概要

- 山田地区では、若者の減少や子どもの出生率の低下が進んでおり、地域の課題となっている。
- 独身男女の交流会を企画し、山田地区の良さをアピールし、若者の定住・活性化に結び付ける。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- コロナ禍の中で、地域資源を活用したお見合いイベントをどのように実施できるかを、アドバイザー（NPO 法人良縁どっと混む）と準備計画していたが、最終的に中止となった。

今後の課題・アドバイス等

- 都城市地域おこし協力隊による婚活ナビでは、趣味で繋がる独身者のための“恋活”イベントとして『サークルコン』や『ゴルフ DE 婚活』など、魅力的な内容で取り組んでいる。
- 山田地区の自然や歴史、伝統工芸や食材などを組み入れた、特色的で少しおしゃれな交流ワークショップ等を企画するなど、独身者の出会いの場の提供を検討する必要がある。

高崎地区縁結び促進事業



取組地区：高崎地区

取組年度：平成 29 年度～令和元年度

事業主体：高崎地区まちづくり協議会

事業費：2,139,193 円（基金活用額：1,535,417 円）

問い合わせ：62-1111（内線 211）

課題・取組みの概要

- 高崎地区は、この 10 年間で約 2,000 人減少するなど少子高齢化が顕著になってきているが、その一方で「出会いの場」を求める多くの独身者がいる。
- このような中、当協議会では、平成 26 年度から少子化対策と地域の活性化を目的とした縁結び促進事業、結婚アドバイザー事業等を実施。今後も事業を継続するものとしている。
 - ・たかぎ恋物語（集団お見合いパーティー形式の婚活イベント）
 - ・高崎よかにせ研究会（異性との接し方などスキルアップ事業）

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 参加予定男性に「高崎よかにせ研究会」として、事前に異性との接し方などのスキルアップを図った。
- 計 30 組以上のカップルが成立し、うち平成 27 年度以降に成立したカップルの内 5 組が結婚まで至るなど、成果を挙げている。

今後の課題・アドバイス等

- 参加者の減少、固定化が懸念されている。
- コロナ禍に対応するイベント内容の検討が必要である。

タイムカプセル開封記念事業



取組地区：高崎地区
 取組年度：令和元年度
 事業主体：高崎地区まちづくり協議会
 事業費：2,001,948 円（基金活用額：2,000,000 円）
 問合わせ：62-1111（内線 211）

課題・取組みの概要

- 市主催事業で、平成 2 年に高崎町制施行 50 周年記念及び新庁舎落成を機に、庁舎敷地内にタイムカプセルを埋設し、30 年後の令和 2 年 2 月に掘り起こすこととしていた。
- これに乘じ、まちづくり協議会で記念事業を開催。協議会のアピールと、地域の活性化に繋げることを目的とした。
- 記念事業では、高崎町出身で東京在住の国際ジャーナル社の末森満氏に、発展途上国の開発問題に長年取り組んできた経験から見た地域振興の講演のほか、開封を記念して、記念 DVD の作成を行なった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- タイムカプセルが埋められていた 30 年の歴史（今までの映像）と平成 31 年度のイベント等を交えた DVD を作成し、記念事業で上映した。
- DVD は、記念事業後も高崎福祉保健センターで開催する各種イベントの際にロビー上映し、各地域公民館や学校に配布することで、郷土愛を育むものとして活用した。

今後の課題・アドバイス等

- DVD の作成枚数、配布先、活用方法の検討を十分に行なう必要がある。

芸術文化環境整備事業



取組地区：高崎地区
取組年度：令和元年度
事業主体：都城芸術文化協会高崎支部
事業費：831,330 円（基金活用額：831,330 円）
問い合わせ：62-1111

課題・取組みの概要

- 都城市は、毎年文化まつりを開催しており、高崎支部加盟団体のほか、小中学校や福祉施設等で作製した絵画や書道の作品を展示している。
- 作品展示に際し、展示パネルを使用しているが、パネル・支柱ともに旧式で非常に重く、金属製であり重量等のため、組み立てに苦慮していた。
- 組み立て作業の効率を高めることで余剰時間を別作業に充て、まつり内容の充実を図るために導入した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 展示パネル、展示用ハンガーフックを導入したことにより、展示に係る作業時間を大幅に短縮。余剰時間を展示会場の別作業や作品の製作に充てることができ、芸術文化の発展に寄与している。
- 新型コロナウイルスワクチン接種事業において、案内板の表示に使用することができ、円滑な事業遂行に寄与するなど副次的な効果もあった。

今後の課題・アドバイス等

- 今後も、他の団体へ展示パネルを貸し出し、さらなる芸術文化の披露の場の充実を図る。様々な用途で展示パネル等を有効活用することで、地域の活性化に役立てる。

イベント環境整備事業



取組地区：高崎地区
取組年度：令和元年度
事業主体：高崎地区まちづくり協議会
事業費：733,536 円（基金活用額：733,536 円）
問合わせ：62-1111（内線 211）

課題・取組みの概要

- 高崎地区は他地区に比べ、年間を通してさまざまなイベント事業が多く、当協議会は各事業において主体的または間接的に活動しながら、地域の活性化につなげている。
- 以前は、高崎福祉保健センターで使用する横断幕や垂れ幕、ポスターなどの作成については、既存のプリンターで対応できず、各団体ともに大変苦慮していた。
- 本事業により大型プリンターを導入したことで、必要な印刷物をいつでも作成できるようになり、作成期間の短縮や作成コストの抑制につながった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 各団体にもプリンターを活用してもらうことで、本協議会と各団体との連携を深め、地域全体の活動の活発化にも繋がった。
- 必要な団体自らが印刷物の作成に取り組むことで活動の活性化と自主性が促される。
- 団体の創意工夫によるイベントの独自性を生み出し、各イベントの集客を増やすことで地域の活性化に繋げる。

今後の課題・アドバイス等

- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、各事業、イベントが中止となり利用がない状態である。収束後、各団体等に積極的な活用を促す。
- 5年保守パックでの購入であったため、今後、消耗品、保守契約の更新にかかる予算確保が必要である。

高崎地区イベント看板等整備事業



取組地区：高崎地区
取組年度：令和2年度
事業主体：高崎地区まちづくり協議会
事業費：648,862円（基金活用額：648,862円）
問い合わせ：62-1111（内線211）

課題・取組みの概要

- 高崎地区では、毎年多くのイベントや大会を各種団体による実行委員会や、まちづくり協議会が中心となって開催している。
- 各種イベントの中には、地域内の商工業者等から協賛金を募り開催経費の財源としているものもある。
- しかし、資金調達が厳しい状況であり、看板等の資材作成及び労務負担が生じている。
- このため、開催経費及び主催団体による準備作業にかかる負担軽減を図る必要があり、共用できる、イベント会場整理看板及び誘導等で使用するカラーコーン等を整備する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 整備した看板等については、まちづくり協議会で管理を行い、汎用性の高い看板等は地区内で開催される各種イベント等への貸出を行う計画である。
本事業の実施により、各種イベントの経費削減、準備等の簡素化により内容の充実と盛り上げ効果を期待している。

今後の課題・アドバイス等

- 備品台帳、貸出簿の整備により所在を明確にし、備品管理を適正に行うことで紛失等を防止する必要がある。
- 棄損等による補充にかかる予算の確保が必要である。

PR看板及び街灯フラッグ作製事業



取組地区：高崎地区
取組年度：令和2年度
事業主体：高崎地区まちづくり協議会
事業費：899,030円（基金活用額：899,030円）
問い合わせ：62-1111（内線211）

課題・取組みの概要

- 高崎地区は他地区に比べ、年間を通してさまざまなイベント事業が多く開催されている。当協議会は、各イベントにおいて主体的または間接的に活動しながら、地域の活性化を図っている。
- また、地区に高崎総合公園等の観光施設や、高崎古墳群、観音瀬等の史跡があるがその魅力を発信する手段が乏しい状況であった。
- PR看板を町内要所に設置することで、高崎地区の魅力の発信に寄与するものである。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 高崎地区の観光、史跡情報を掲載した看板を修復、設置（2箇所）した。
- 国道221号線に設置してある街灯吊り下げ用フラッグを製作（100枚）した。
- 移動式デジタルサイネージ（大牟田農産加工センター内）を設置した。

今後の課題・アドバイス等

- コロナ禍で、祭りの中止によりフラッグの使用機会が無い。今後の活用を期待する。
- 看板の維持補修に伴う経費確保、フラッグの経年劣化による補充が必要である。